

### アルミパネルの外壁材が歪んできたが耐久性に問題ないか

<b>相談 内容</b>	<p>鉄骨系のプレハブ住宅を15年前に新築した。外壁材を当時では高価な材料といわれたアルミパネル材を採用した。最近表面の劣化が進み、業者からの提案もあって塗装の塗り替えを全面的に行った。塗装時点で気付いたが、アルミパネルが歪んできている。業者に原因や補修方法を確認したが、金属系のパネルはどうしても太陽光による温度上昇によって歪んでしまい、このことはやむを得ないことと説明を受けた。</p> <p>新築時の材料選択ではこうした歪みが生ずることについて業者から説明はなかったと記憶している。高価な材料ということもあって、このような状況になったことに納得がいかないと感じている。また、今後この歪みが住宅の耐久性に影響が出ないか心配している。どのように対応したらよいのか。</p>
<b>回答 内容</b>	<p>金属系のパネルは熱伝導率が高いため熱による影響を受けやすく、パネルの厚みや大きさにもよりますが、熱による膨張がパネルの歪みとして表れてきます。気温の低下によって解消することもあります。歪んだまま元に戻らないことも考えられます。</p> <p>こうした金属系のパネルは、その特性から、メーカー側としても事前の対応が執られているはずですが、場合によっては、原因が材料ではなく、取付の方法であるかもしれません。これを確認するひとつの方法として、同じメーカーの同じ材料を使用した近くの住宅がある場合は、その住宅の状況を確認してみることです。請負業者に物件を紹介してもらって自ら確認してみることが大事です。もし、その紹介物件に歪みが生じていなかったとすれば、相談者の住宅の施工方法に原因があるものと考えられます。再度業者側からの説明を求め、施工が歪みの原因であるとすれば瑕疵工事として修補請求をすることとなりますが、すでに瑕疵担保期間は経過してしまっていますので、請求は難しいといえるでしょう。</p> <p>歪みの状況にもよりますが、外壁材として支障がある状態ではないことを確認したうえで、意匠上からその歪みを許容できるものであれば、これ以上指摘しないことも考えられます。これについては、最終的に相談者の納得性の問題といえます。この場合、業者側から構造上問題が生じた場合には無償で取り替える等の覚書を取り交わしておく等の事前策も考えておくことも必要です。</p>